

# ” Wrap ”

～人々の想い・思い出をユリの花が包み込む～



## Concept -概念-

周辺を海と山で囲まれた自然豊かな環境の地に建つこの施設は、伊江島の人々や県内外、はたまた国外から訪れる観光客を出迎えては送り出し、幾度となく人々の生活を見守り続ける場所となる。  
訪れる観光客は伊江島タッチェーからの景色や島の歴史に期待や楽しみを抱き、伊江島を出ていく若人は、夢半分、寂しさ半分で羽ばたいていくのだろう。  
楽しくも儚い、そんな人々の想いをやさしく包み込む、さながらユリの花を思わせるような屋根とした。

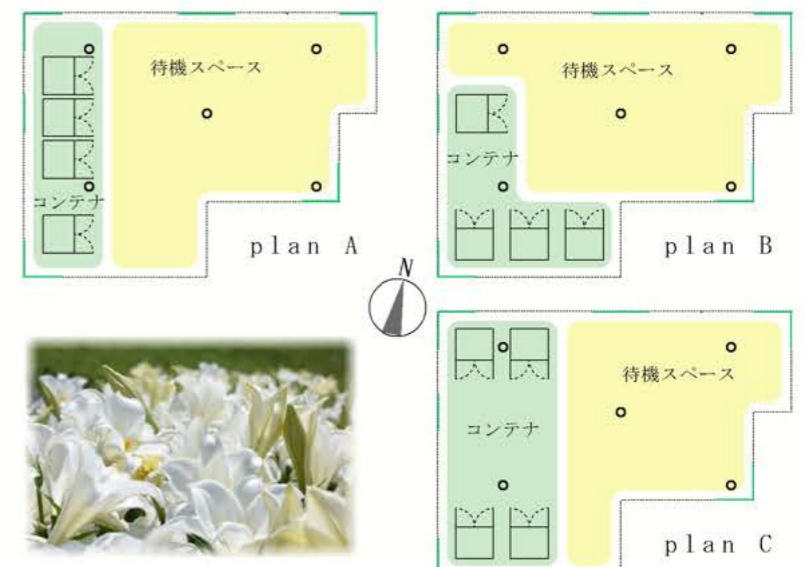
## Plan -計画-

この施設は既設ターミナルの北側に位置し、旅行客の待機と荷捌き施設機能を併せ持つ。平日と休日、旅行シーズンやオフシーズンなど、日々利用客数が変化する施設では、人の待機スペースとコンテナスペースをフレキシブルな配置が行えるよう考えた。  
それらのスペースを包み込むように屋根を架け、日差しや降雨をしのぎながら、ベンチに腰を掛ける。緑のカーテンが海風に揺られ、葉と葉が奏でる涼やかなささやきと、波の音や海の風を感じながら、海沿いの心地よい雰囲気の中、フェリーを待つ「ひと時の休息」を演出する。

## Layout -配置図-



## Zoning -区画-





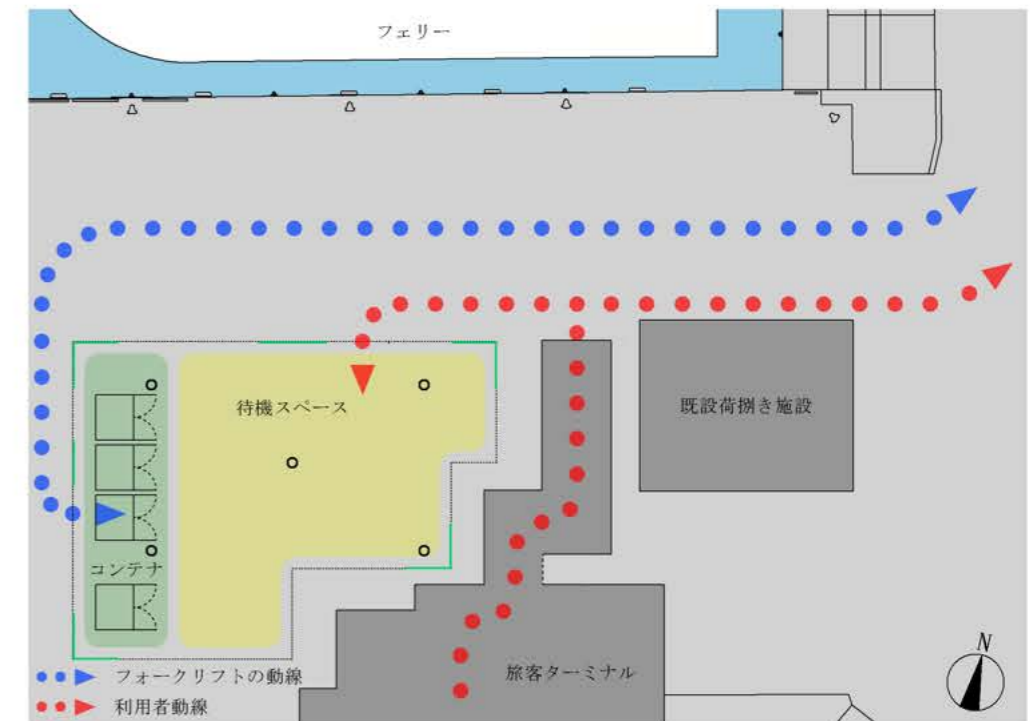
Thought・Memories - 思い・思い出 -

この施設は伊江島の人々や県内外、国外から訪れる観光客を出迎え、送り出し、様々な人々が利用する施設である。ただの屋根付き施設ではなく、楽しかった思いや記憶を施設とともに、大切な思い出として、人々の心に刻まれる施設としたい。さながら、神社の絵馬のような、訪れた人々の願い事を書き残すかのように。



Flow line - 動線 -

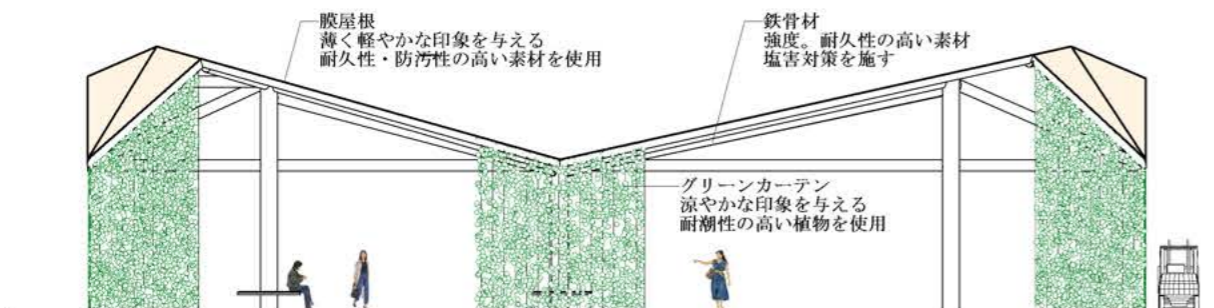
待機場所やコンテナ配置は、時々の使用により変化するため、フレキシブルな配置が行えるよう配慮した。軒先を4.00m以上の高さに設定したことで、施設のどこからでも入れるため、様々なレイアウトが可能である。



Construction - 構造 -

待機スペースやコンテナスペースをフレキシブルに配置できるよう、少ない柱で建てられ、間取りやデザインの高い自由度が鉄骨造、屋根には、薄く軽やかな印象を与える膜屋根を採用。自重が軽く、強度・耐震性など様々な面で性能が高く耐用年数の長い構造である。計画地の環境から、鉄骨材には塩害対策を行う。また屋根の膜材は、耐久性・防汚性の高い素材を選定し、メンテナンスフリーでライフサイクルコストの低減に貢献する。工場で作成するため、工期の短縮が可能となる。基礎には杭を用いず、コマ基礎を採用することでコスト削減に配慮する。

- 建築概要
  - 床面積：306.0㎡
  - 構造：鉄骨造
  - 基礎：コマ基礎（トップベース工法）
- 仕上
  - 屋根：膜材（酸化チタン光触媒コーティング<sup>®</sup>）
  - 柱・梁：溶融亜鉛メッキ処理下地フッ素樹脂塗装
  - 床：コンクリート洗出し仕上（本部産砕石材使用）



Landscape - 景観 -

本部港東の山、隣接する旅客ターミナル、海までの稜線に合わせた高さ設定とし、スカイラインの連続性を意識した。また、計画施設周囲に緑を取り込むため、壁面緑化を模したグリーンカーテンを取り入れ、景観に配慮したファサードを作り出す。緑化には、耐潮性がある植物を用いる。



Added value - 付加価値 -

まちの特色を施設へ取り込み、訪れる人々に本部町がどういった地域なのか学ぶ機会を提供することにより“町の魅力”を伝える場所として活用する。また、団体旅行客の少ないオフシーズンにイベントを行う施設の新たな利用形態を創出し、本部港に賑わいを生み出す。

- ・本部マルシェ
- ・展示会
- ・古本市 etc...

